

金沢市障害者スポーツ振興 ～障害者スポーツの支援者と理解者を増やすために～

指導教員 北陸学院大学人間総合学部 准教授 田引俊和
参加学生 牛若美乃・神初美有・千田雪乃

指導教員 金沢星稜大学人間科学部 教授 井上明浩（連携ゼミ）
参加学生 石田直也・上端克尚・岡山楓汰・坂江亮太・宮下尚弥・宮下祐希・柳田光風・
若宮勇作

1. 調査研究成果要約

地域の障害者スポーツ振興に向けて2つの調査研究を行なった。就学前の障害のある子どものスポーツニーズの調査研究では、継続した実践への前向きな評価を確認した。今後の展開、支援スタッフ養成に向けた根拠となり得る。また、地域スポーツイベント（金沢マラソン）での障害者ランナー調査では、市民の声援と大会運営に対する高い評価、当事者ならではのニーズ、提案も示された。今後の充実化に向けて結果を地域で共有していく。

2. 調査研究の目的

研究テーマである「障害者スポーツの支援者と理解者を増やすために」の推進のために、以下の2点に関して障害がある人たちのスポーツニーズ・課題の検討を行なった。

(1)見落とされがちな就学前の障害のある子どものスポーツニーズの調査

スポーツ実践を継続的に支援するとともに、比較的若い世代にある保護者のニーズを明らかにし、スポーツ振興への根拠とする。

(2)地域スポーツイベントへの障害者の参加に関するニーズ、課題の調査

金沢マラソン2017に参加する障害者ランナー、伴走者の、大会参加に関するニーズ・課題の実態把握を行ない、今後の障害者が参加する地域スポーツイベントの充実化への貢献を目指す。

3. 調査研究の内容

前述の2. 調査研究目的に基づき、今年度は大きく2つの調査研究を行なった。内容を以下に示す。

(1)就学前の障害のある子どものスポーツニーズの調査

障害のある就学前の子どものスポーツ実践（あそびとスポーツを融合させたもの）を展開し（写真 1,2）、一緒に参加する保護者等にスポーツ実践に関する意向を確認した。また、障害がある子どもを対象とする児童発達支援・放課後等児童デイサービス事業所のスタッフからも取り組みに関する評価を確認した。

実践に際しては、事前に2つの大学のゼミの専門性をもとに子どもの障害特性や発達年齢に合わせた運動能力、獲得課題を検討し有意義な取り組みになるよう工夫した。2017年7月～12月の土曜日の午前に全6回行い、子どもの参加数は当事者と兄弟含め各回10-15名であった。



写真 1, 2 : 障害のある就学前の子どものスポーツ実践

(2) 地域スポーツイベントへの障害者の参加に関するニーズ、課題の調査

金沢マラソン 2017 に参加する障害があるランナー、および伴走者の、大会に対するニーズ・課題の実態把握を行なうためにアンケート調査を行なった。大会前々日と前日、障害者受け付けで当事者と伴走者合わせて 98 人に配布し（写真 3,4）、52 件を回収した（郵送法で回収、回収率 53.1%）。



写真 3, 4 : 金沢マラソン 2017 障害のあるランナー・伴走者調査

4. 調査研究の成果

(1) 就学前の障害のある子どものスポーツニーズ

障害のある就学前の子どものスポーツ実践（あそびとスポーツを融合させたもの）を継続し、保護者等から以下のような評価を得た。

- ・ 心も同時に成長出来ると思った。
- ・ 1 人一人の可能性を引き出してもらえる素敵な会だと感じた。
- ・ 子供たちみんなが自然と笑顔あふれていて、感激した。
- ・ 子どもがやさしい学生さんたちと関わりをもてることを親としてうれしく思う。
- ・ 私自信も励みとなった。
- ・ 来年も継続してほしい。

就学前の障害がある子どものスポーツは、単に身体面だけでなく、心的成長、仲間との活動、親子での成長といった部分への期待があることが明らかとなった。また、その機会・場が十分でないことも推察された。本結果は、今後の継続展開、および支援するスタッフ養成に向けた根拠となり得る。

(2)地域スポーツイベント（金沢マラソン 2017）に対する障害者の意識・ニーズ

金沢マラソンに参加した障害があるランナー、および伴走者を対象とした調査結果では、過去のフルマラソン出場経験は、10 回以上が 43.4%で最も多く（図 1）、週当たりの練習時間では、1-2 回と 3-4 回が 37.7%という結果が得られた（図 2）。今回の障害者ランナーは、ある程度の競技能力を備えて金沢マラソン 2017 に参加していることがうかがえる。加えて、金沢でのマラソン、金沢観光への興味も合わせ持っていることも示された（図 3）。

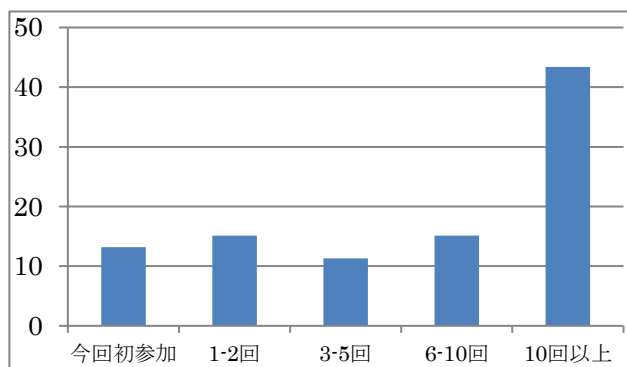


図 1：過去のフルマラソン参加経験 (%)

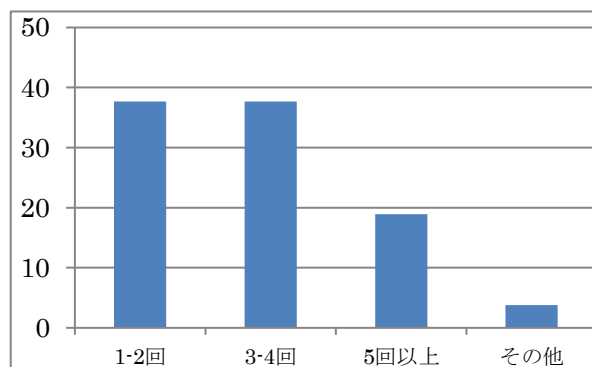


図 2：1 週間あたりの練習頻度 (%)

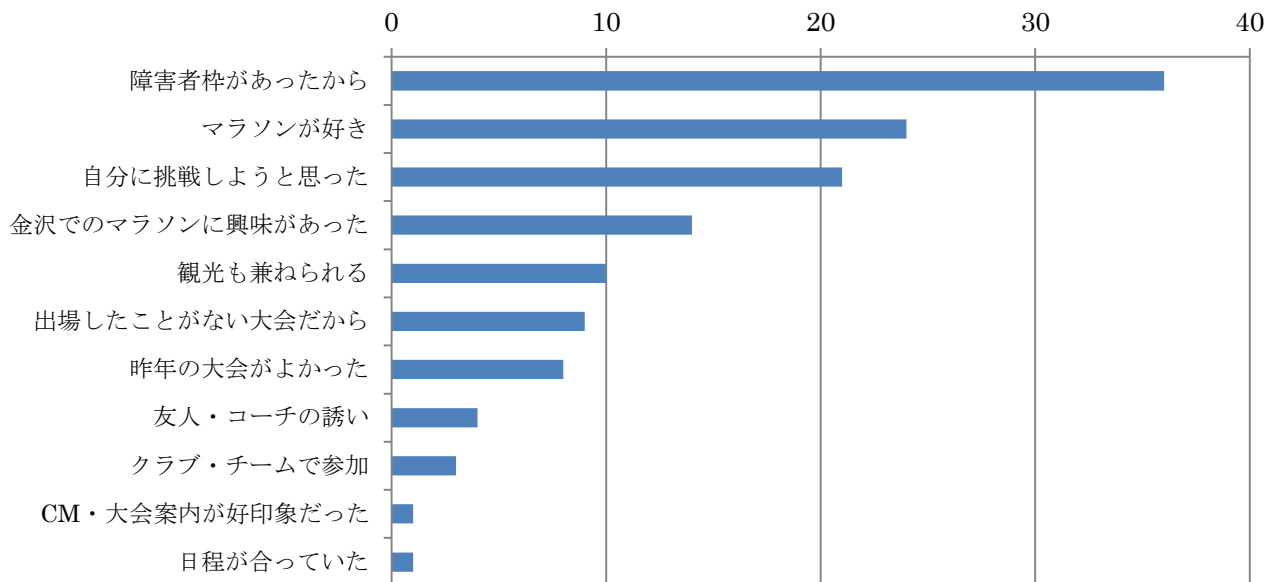


図 3：金沢マラソンへの参加理由（人、複数回答）

金沢マラソン 2017 に対する障害者ランナーの評価は、概して良好で、とくに、周りの声援は高い得点を示している（表 1）。また、自由コメントにおいても周りの声援に対する記載が数多くみられ、併せて、大会運営に対する評価、障害者ランナーならではのニーズや提案も得られた（表 2）。今後のさらなる充実化に向けて結果を地域で共有していきたい。

表 1：金沢マラソンに対する障害者ランナーの評価（５段階）

受付等	荷物の受け渡し	4.41	レース等	周り声援	4.68
	受付作業・説明	4.18		走路の誘導	4.33
	案内・誘導	4.29		給水・給食	4.33
	大会記念品	4.37		救護体制	4.04

表 2：金沢マラソン運営に対する障害者ランナーの評価（自由記述コメント）

地域・ 応援等	・応援が多くて楽しかった。金沢観光も楽しめた。 ・金沢市民のみなさんはとても親切で、温かく、心地よく過ごせた。 ・たくさん声援をいただき楽しい大会だった。 ・雨の中、小さな子から高校生、お年寄りまでたくさんの声援でがんばれた。 ・大雨の中、沿道の盛大な応援はとても素晴らしく感動した。来年も出たいという気持ちになる。 ・寒い中、ずっと応援してくれる人たちがいて本当にうれしかった。金沢市民のみなさんありがとう。 ・沿道で途切れることのない声援には胸が熱くなった。来年もぜひ走りたい。 ・とにかく声援が素晴らしい。メジャーなマラソンでもトップクラスだと思う。 ・沿道には、障害者ランナーとわかってもらえず冷たい視線もあった。見た目にわかりにくい知的障害や内部障害への工夫が必要。
運営等	・案内等はとてもわかりやすかった。迷うことが全くない。2年前と比べると全ての面で大きく改善されていた。 ・ボランティアの数も多く、スムーズな運営に加え、熱い結束力も感じられ、自慢できる価値ある大会だと思う（地元の障害者ランナー） ・風雨の中、大会スタッフ、ボランティアには感謝、感謝。 ・すばらしい運営、ボランティア。 ・手話通訳があったことはすごく良かった。心強かった。 ・受付が金沢駅から直結しているのはいいし、バスもたくさん出ていて助かった。 ・会場のトイレの多さもすばらしい。 ・給水やトイレ、救護所の看板が視覚障害がある私にもとても見やすかった。 ・エイドの食事が最後尾でもあるのがうれしかった。 ・障害者ランナーと一般ランナーを区別なく扱っていて良い。 ・伴走者と走るの、Bゾーンからのスタートは大変良かった。 ・障害者枠があり、確実に参加できるのでうれしい。 ・スタートセレモニーは参加者が多いため、手話通訳など検討してほしい。 ・レース中はエイドであまり食べられないので、ゴール後にもあるとうれしい。 ・障害者ランナーの練習する場を作してほしい。 ・健常ランナーのイヤホンは禁止にした方がいい（複数）。 ・伴走者用の荷物の袋を準備してほしい（複数）。 ・手話通訳者がいることがはっきり見えるように看板があった方がいい。 ・障害者ランナー、伴走付きランナーにとっては、給水は両側にあった方が助かる。 ・銭湯一覧はうれしいが、場所がわからなかった。地図もあるといい。 ・中途失聴者には手話がわからないこともある。 ・今後は周知の方法を工夫すればより参加者が増えると思う。 ・前日に宿泊、飲食店を紹介してほしい。観光コースを紹介してほしい。 ・障害者ランナーの障害別区分を設けた方がいいと思う。 ・障害者ランナー用のサロン、ゴール後の着替えスペースなど設営してほしい。

5. 来年度の調査研究計画

今年度の調査研究の結果をふまえ、本事業をより深化、継続し、当地域での障害児・者のスポーツ実態、およびニーズ・課題の分析と、根拠に基づく支援のあり方を検討する。また、実践や調査研究の成果を発信することで参加者、支援者、理解者の増大を目指す。

6. なお、調査研究に対する地域（連携団体：金沢市スポーツ振興課、オリンピック関連事業推進室兼務）からの評価は、最終分析を提出した後に受け取る予定である。